連載 ⑬

登録団体活動レポート

テニス部OBOG会

副幹事長 樋口眞一（83年・経）

創部200年の大計に向けて

体育会テニス部は、慶應義塾大学、早稲田大学に次ぐ、日本では3番目に歴史ある部です。「文武両道」をつらぬき、「良心」と「自由」の同志社スピリットで学生を育成し、自分自身でも、また家族にも「誇れる部」を目指しています。

この一球

「この一球は絶対無二の一球なり」

これは、第1回全日本庭球選手権大会シングルスチャンピオンの福田雅之助さんの言葉です。

目を閉じると、はっきりと、私の人生の中の、この一球が歓声とともに目に焼き付いています。それは1982年4月8日、関西学生大学対抗庭球リーグ戦の入れ替え戦で、2部リーグ優勝の同志社大学と大阪大学との試合で、川勝幹夫選手（83年・経）のフォアハンドのパッシングショットがエースになり、同志社大学が1部リーグに昇格する瞬間でした。それから約40年間、同志社大学テニス部男子は、紆余曲折はあるものの、ほぼ関西1部リーグで戦ってきています。1984年、85年、88年から91年まで関西1部リーグで優勝し、全日本大学対抗テニス王座決定戦に出場しています。昨今では2013年に王座に出場し、慶應義塾大学に4対5の僅差で惜敗し、全国第3位となりました。

また女子も90年に念願の1部リーグに昇格し、紆余曲折はあるものの、2019年には1部リーグに復帰しています。

現在、部員数約50名で、王座出場を目指し、京田辺のコートで鍛錬と精進を積み重ねております。

創部1905年

近代テニスは1874年（明治7年）に、イギリスで「ローンテニス」として確立したことに始まると言われております。この年は、同志社の創立者　新島襄先生がアメリカから帰国した年でもあります。さらに、1878年に日本にテニスを紹介したとされるアメリカ人のリーランド博士は、アーモスト大学の出身者。また同志社に近代テニスを紹介した人物は、新島先生から受洗し、同志社と早稲田で活躍した安部磯雄先生だと言われています。1905年、同志社運動部規則が制定された年に、テニスは正式な部として発足致しました。

同志社テニス　Since1905

誇れる部

先日、大学卒業以来約40年ぶりに、当時戦っていた関西学院大学、甲南大学、京都大学の仲間と食事をする機会がありました。そこで「同志社の選手は、いつも礼儀正しく、スポーツマンシップにのっとり、試合をしていても、気持ち良かったよ。ええやつが多いよな。」と言って頂きました。嬉しかったです。これは同志社スピリットである「良心」と「自由」の教育を受けてきたからだと確信しています。

スポーツの世界なので、チャンピオンになることを目標にして、毎日練習を重ねてきています。ただ、同志社は「文武両道」を求められ、スポーツも、勉強にも注力する必要があります。さらに、人として尊敬されるような人間教育も受けてきております。社会人になり、会社で幹部として期待される、また結婚し、家庭を築いていく。そのようなときに、テニス部で学んだことが活かされ、自分自身も、また家族にも「誇れる部」であるべきだと思っています。

同志社東京校友会副会長の港章氏（75年・工）がテニス部のOBOG会会長もされていますが、「OBOG間の親睦を深めよう」ということで、2021年11月に、関西四大学（同志社大学、関西大学、大阪大学、大阪市立大学）のOBが集まり、テニス大会を開催しました。約20名が集まり、和気あいあいというより、現役時代さながらの真剣勝負の熱戦が繰り広げられ、見事同志社大学が優勝しました。左の写真は、ユニフォームも揃えたその時の雄姿です。

四大学OB戦
（左から大矢、樋口、港、河島、角田、善野、和地）

若草萌えて

昨今スポーツに注力し、有望高校生をスカウトしている大学が増えています。ただ、同志社大学は「文武両道」の精神を貫いています。テニス部のみならず、同志社大学スポーツが活躍することを祈念しております。

「男々しく立て　同志社」

団体概要

【団体名】
同志社大学体育会
テニス部OBOG会

【設立年月日】
1905年

【代表者】
会長　港　章（1975年・工）

【会員数】
600名

【連絡先】
s.higuchi0531@outlook.jp
樋口眞一（1983年・経）